

地域の道しるべ新聞

集落を支える現役世代と次世代が、ともに考え、つながる

vol.2 2020.2.20 佐久穂町役場 総合政策課 長野県南佐久郡佐久穂町大字高野町 569 番地 TEL0267-86-2553

高齢社会・人口減少に対応した集落運営のあり方を探る地域の道しるべ新聞。第2号は大きな被害をもたらした台風19号を特集します。今回は普段行政の配布物をあまり読まないという方にも届けるべく、イラストを中心に構成しました。災害は年齢に関係なくやってきます。どの世代の皆さんもぜひご一読いただき、家族で、地域で、コミュニティの中で災害について話してみませんか。

あの日、 区長は。

この新聞は、地区の区長さんに発災当時の心境や状況をできるだけ詳細にお聞きし、まとめたものです。この災害を記憶のあるうちに記録に残すことで、今後の集落の運営や災害への備えに役立てることがあるのではないかと考えて、今回は7人の区長さんにご協力いただきました。発災後半年経たない今、お読みになる方にとっては、非常に重く、苦しく感じられる部分もあるかと思いますが、しかし、再びやってくる可能性のある災害に備えるため、発災後、初めての地区の総会を控えるこのタイミングでの発行となりました。ご自身の経験と照らし合わせて、お読みいただけたらと思います。

お読みいただく
皆さんへのお願い

区全体の被害状況や区長個人の状況によって、できたこと、できなかったことがあります。すべて記載しています。区長自身、この対応で良かったのかと迷いや後悔が今も残っていますが、今後の町のためになればと掲載を承諾していただきました。それを踏まえて、お読みいただけたら幸いです。

大日向5区 あそこまで被害が出ると 思わなかった



10.12(土) 当日

区として事前の準備はしていなかった。役場からも区長個人には連絡はなかった。台風は報道で知った。

災害があった場合は、地区の本部長は区長、という認識だった。

三役が朝から集まった。

すでに消防団が5区の公民館を使用していた。

土壌はたまたま50個程あって、消防団が積む場所を判断。



11:03 高齢者等避難準備情報 発令

区には高齢者名簿があるのみで

独居は把握していない。

消防団が把握していたので元分団長がリードして

黒板に名前を書いて連絡していった。



13:51 避難勧告 発令

全世帯「いつ」「どこに」「どうやって」避難しているか

消防団が3人組になって集落を回り確認をしていった。

家にいる人にも今後の予定を聞いた。

「残る」と言った人はしょうがないとした。

川の側など危険な場所に住んでいる人は
区内の仲が良い人から誘導して避難してもらった。

17時には川の流れがすごくて危険だった。

消防団が何度か見回りをしたので、

写真でどこが大変だという状況を把握していた。

その後は何も出来ない時間が続いた。



最初は
大日向小へ避難指示
グラウンドが水びたしだった
ことがあったなと思いながらも
家族が行ったが
その後変更にも。

21:00 龍興寺に避難

ダム放流予定と聞いて消防団と三役は少し高い龍興寺に移ることに。

和尚にお願いしたら、すでに4区の区民がいるとのこと。

毛布は個々、食べ物、消防団が買ってきてくれた。

停電していたので、大工仕事で使う懐中電灯で過ごし
発電機で携帯電話を充電。

そこで一晩過ごしたが、あの状況では寝られなかった。

龍興寺では防災無線が雨の音で聞こえない。

(公民館は屋外のスピーカーが近くにあり聞こえた)



公民館にも
発電機があったほうが
いいとわかった
携帯が使えないと
情報が得られない...



防災無線は
電池で動くから
持って出れば
よかった...

下川原橋では上流から流れてきた木や枝が橋梁に絡みつき水をせき止めた。それにより越水し、周辺のすべての家屋に甚大な被害をもたらした。発災翌日、高見澤区長はこの橋の上に流れついた大木2本を区民の力で撤去した。



10.13(日) 被害が明らかに

「被害があった」と区民から続々と連絡があった。

三役と区の水利委員を集めたら、皆大変な被害だと言っていた。

Tさん宅が大変だということで、三役を連れて見に行ったら山からの水で川のようになっていた。

会計が重機を持っていたので、自分たちで水を止めた。

チェーンソーや重機がいるので消防(町)へ重機を依頼。

下川原へ行ったら橋の上に長い木が2本乗っていて自分たちで撤去作業。

道が落ちているところがあったので、

4t車3台分の碎石を専門業者へ依頼(請求書は建設課へ)。自分たちで敷いた。

バックホーを使える人が区に10人。重機は町から4台、自分たちのが2台。



自分たちで
判断して
動いた

10.14(月)～ ボランティアの配置に苦慮

自分の家の床をまず剥がして、地域の皆に見てもらった。

こう入っているから泥を出すよと。床を剥がすのは自分たちでしてもらった。

もう住まない家は今思うと泥を出す必要はなかったかもしれないが

自分が泥を出すように指示を出してしてもらった。

断水と停電が続いた。

医療関係で働く区民が、断水が長引くことを考えて

仮設トイレを設置する提案をしてくれた。

自分でもやらなくてはいけないとは思っていたが

他に沢山やることがあってできていなかった。

後押ししてくれたおかげで、すぐに町に依頼することができた。

その他にも自分では気が付かない視点からの、区民の方の助言に助けられた。



16日(水)に災害ボランティアが必要か区民に聞いて回った。

人数の配置については自分がやると社協に言ったけど

実際は想像以上に変なだった。

自宅の作業が進められない。

18日(金)からは社協の方でボランティアを分けてもらうようお願いした。

取材者のつぶやき

消防団や役員が声をかけても避難を嫌がる人も多くいました。気心を知った仲の人に誘導してもらえた人は嫌な気持ちを持たずに避難できたのでは。災害時にも普段の関係性を活かすことが大事ですね(副島)



地域おこし協力隊
副島



5区 区長 高見沢 好市さん

消防団が避難誘導をリードしてくれたり、区の人が率先しておにぎりや豚汁の炊出しをしてくれたり、ボランティアの方が来てくれたり、皆さんの協力が本当にありがたかった。ただ、今回の経験から平常時に消防団と一緒に緊急時どうするか会議をする必要があると感じている。訓練や練習よりお互いの情報交換が必要。



平常時に
会議する
必要あり

大日向 1区 暗く、橋に水が来ていて怖かった



10.12 (土) 当日

役場からの連絡はなく、NHK で情報を得た。
災害で過去に公民館に避難したことが2度あった。
経験的に降雨量が2日間で400ml くらいなら心配ないと思っていた。
しかし今回の台風は終わってみたら
予想をはるかに超えて24時間で557ml(上石堂観測地点)。



去年の増水時
情報源として
TVが必要と感じ
設置していた

区長と副区長は朝から避難所である
1区の公民館に待機し、テレビで情報を得た。
去年、大雨による増水で公民館を避難所として開放した際
情報源としてテレビが必要だと感じ、設置していた。

区の中に、自力で避難できる手段のない家があり
車いす専用の車がないと移動が難しかった。
その家のことが気がかりで
午前中に役場に電話をしてその旨を相談し
避難をさせてもらうようお願いした。



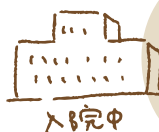
役員になる人は
町内に勤めている人
ばかりではないし
災害時に動ける職場では
ない可能性もある...

11:00 独居の区民にのみ声かけ

昼前に民生児童委員、消防団と連絡を取りあって、各家に声かけをした。
民生児童委員が入院している独居の高齢者については把握していた。
避難をする際に、区長に連絡をしてきてくれた人もいた。
独居の人4、5人は区長が回った。
逃げられなかった人がいたら区長の責任になると思った。

15:00 区長も茂来館へ避難

すでに暗く、橋に水が来ていて怖かった。
もし人が避難して来たらと思い、公民館にいようと思ったが
ほとんどの人が避難をしたことが確認できていたので
公民館を閉めて茂来館に避難した。
2台ある自家用車の両方を持っていこうとしたが
茂来館には沢山の人が避難しているだろうからと思い
軽トラックは公民館に置いていった。
茂来館では、先に避難していた1区の人と合流し
みんなでご飯を分け合ったりしながら一緒に過ごした。
知っている人同士のほうが安心する。そういう区民同士の団結があった。



区民の
「今」を把握
してないと
わからない...



高山付近の様子を横から撮影。
由井さんから1区の区民は、発災の翌朝
ここに車を止め、徒歩で1.2km程先
にある自宅に戻った。



国道 299 号が大きく崩落した様子。この災害によって川の形が変わり、川底が高くなってしまったと住民は語る。



大日向 1 区への入り口である高山付近にて大規模な土砂崩れが発生し、住宅が全壊した。地元の建設会社が、散乱した木や石を撤去するために明け方から作業を行い、住民が自宅に戻れるように復旧を急いだ。

10.13 (日) 自宅も公民館も被災

朝 5:30、車のテレビで長野市の穂保地区の被害を見た。
先に現場に行っていた消防団や同じ区の人から情報を聞いて
茂来館に避難していた区民と9時前に車6台ほど連なって大日向に戻った。
1区の入りで土砂崩れが発生し
すでに地元の建設会社が散乱した木や石の撤去作業を始めてくれていた。
車が通れなかったため、自宅のある場所まで1.2km ほど歩いて戻った。
とても靴の汚れなんて気にしていられなかった。

途中から
徒歩で帰宅
車は置いてきた



自宅付近にある公民館が土砂で埋まっているのを見て
土肝を抜かれた。
自宅も床上浸水した。
公民館に停めた軽トラックもダメになった。
道が川になっていて、その水が自宅に流れ込んでおり、止めようがなかった。
三役のうち1人が重機を持っていたので、すぐに持ってきて、水の流れを変えてもらった。
区の30軒のうち被害があったのは6軒。
被災していない家の人も手伝ってくれた。
家の被害を見て「うちは被害がなくてよかった」といった人がいて辛い思いをした。

復旧に向けて

公民館の復旧は区の役員や、役員経験者らが集まって
早急に畳の運び出し等を行った。
後日、災害ボランティアに泥出しなどをお願いした。
公民館は皆のものなので
とにかく戻さないとけないという思いで役場と調整を行い
12月下旬には使えるようにした。



温度差が
つらい時が
あるな...

携帯の電波がなく、役場との連絡を取るのに苦労した。
役場指定の土砂捨て場となった曾原地区や
災害ごみの置き場が設置された元気が出る公園までは、
積み降ろしもいれりと往復1時間以上かかってしまい、それでは作業が進まないと思った。
少しでも早く復旧しないとという気持ちがあったので
災害ごみの仮置き場を区内に設置することを町に認めてもらった。
災害ごみではなく便乗ごみを捨てる人がいたため、仮置き場の見張り役がほしかった。
土砂捨て場は、場所を借りられないかと区民をお願いをして
区内に置かせてもらえるように手配した。
本当に助かった。



道路だった場所はすべて土砂で埋め尽くされた。公民館(左)や由井区長の軽トラック(中央)も埋まった。役員の一人が重機で住宅に流れ込む水の向きを変えた。



1区 区長 由井 勝之さん

コミュニティのことや、区の仕事についての学習会などに参加してきて
勉強になっていたし、役場との信頼関係をつくることができた。
区は行政頼みなのではなく、行政がいい相談役になって、
区長を信じてくれたのでこの災害に対応できたと思う。
町が地域を信用してくれたと思っている。

取材者のつぶやき

唯一公民館が被害にあった大日向1区。佐久穂町では、
公民館が一時避難場所となっている地区がほとんどですが、
公民館の立地や周辺の環境によっては、
避難所として十分でないという教訓となりました。(炭谷)



地域おこし協力隊 炭谷

大日向 2区 停電。夜は真っ暗だった

10.12 (土) 当日

昼、公民館を開放した。
それを班の伍長に伝えた。
無線放送で、茂来館か大日向小へ避難するようにとアナウンスがあった。

公民館には5、6人が来た。
役場に電話したら、茂来館へ避難するようにとのこと。
看護師がいるし、公民館には食料や物資が整っていない。

夕方以降も区長と副区長は公民館に来た人を
茂来館に誘導するため公民館にいた。
少しは毛布・非常食もある。

伍長に声かけを指示

(大日向1区2区担当の)民生児童委員から
電話があった。
心配な家の声かけをしようという話で
自分は2区の家に声をかけて回った。
親類などが避難させてくれていて
家にいない人の方が多かった。

伍長に各班の避難の確認をして、
区長へ報告するように指示をした。
元々自分が消防設備関係の仕事をしていたので
区長1年目に自主防災組織図を更新した。

19:00 心理的に避難できない区長という役

山から水が出ていて町道が川になっていた。
大きな事故で避難した責任者がバッシングされている報道が頭をよぎり
区長が区民を差し置いて真っ先に避難して
後で何と言われるかわからないと思うと、避難できなかった。

自宅に戻り、お風呂に入ったあと、断水になりそうだとわかったから
新しい水をお風呂にたくさん貯めた。

夜は停電し、真っ暗だった。
無線放送は、家のすぐ近くの外のスピーカーから聞こえた。
エコキュートのお湯が止まった。



矢沢付近の道路の様子。ところどころ隆起したり、沈んでいたりする。大塚区長の「町道が川になっていた」との証言にあるように、多くの沢からの水が集落内を通り、抜井川に流れ込んだ。



2区 区長 大塚 喜八さん

災害と事故は必ずおきます。
日頃の訓練で慣れておく必要があります。
4月の区長になったタイミングで自主防災組織図を
伍長と一緒に確認しておいたのが良かった。

取材者のつぶやき

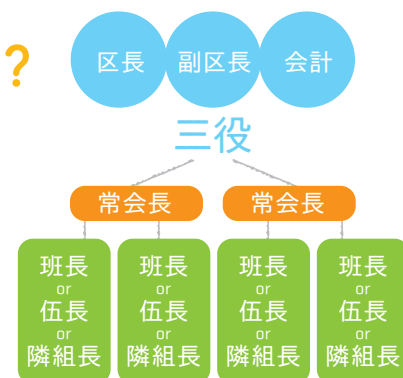
発災後、茂来館で携帯電話の充電をする大塚区長に数回お会いしました。
電気がなく、かつ、携帯電話も通じない時間が長かった中で、パイプ役となる区長さんの苦勞をみてとることができました。「公民館に自家発電機を」という言葉は、茂来館で会った大塚区長の姿と重なりました。(炭谷)



地域おこし協力隊 炭谷

区の「役」とは？

「区長」「三役」「伍長」といった
表記は区の組織の役職名。
図のような組織になっており、
数年おきの交代で、
地区の人が役職につく。



10.13 (日) 地域を見回り

6時ぐらいい起きて、副区長と土木委員三人で歩いて見て回った。
人命に関わるような緊急性のあるものがなかったため、
役場から連絡が来るまで役場には連絡しなかった。
しかし被害規模が大きくて手がつけられなかった。
抜井川に近い場所の家が被害に遭った。

公民館に自家発電機が欲しかった。携帯を充電しに茂来館に行くのは大変。

トイレは1回流すのにバケツ1杯使った。
洗いのものをしないように紙のお皿にしたりした。



抜井川の増水によって水田や畑が一面浸水した。

10.18 (金) 再び避難勧告

その時はほとんどの区民は避難所に行かなかったようだった。
茂来館はガヤガヤして寝られないから嫌だと言っていた。

区民から水路に堆積した土を重機で元に戻してほしいとのことで
田んぼの用水を土木委員とで2度見て回った。
建設課の現場立会いで
直すべき場所を伝えた。

冬の区の行事等の取り止めや
変更は特にしなかった。

土砂と水の流入によって
住宅の玄関ドアが外れ、
家財が流される被害があった。
家の床上に大量の泥や石
が流れ込んだ。



茂来館は
ガヤガヤしていて
...



大日向 3区 三役のうち二役が被災



10.12 (土) 当日

14:00 家族を避難させ消防団とともに詰所に

避難勧告後、妻と義母を佐久市の妹の家へ避難させた。
三役のうち区長だけ3区の消防団詰所に詰めた。

独居の老人を消防団に確認してもらって
茂来館へ1軒搬送してもらった。
土嚢が60個欲しいと区民から依頼があり対応した。



16:30 区長が避難するわけにはいかない

詰所は解散した。
雨が少し弱くなったため家に戻った。
区長という立場である以上避難できない。
しかし17時頃に川の水が増えてきていることに気づいた。
18時に停電になった。
暗い中、お勝手の方から水の音がすごかった。
防災無線も川の水で聞こえなかったし、電池も切れていた。
水が畳の上に上がってきたから
家電のコンセントを抜いて2Fへ上がった。



深夜 0:30 道が塞がって孤立 避難できず

ベランダから外の様子を見た。
避難しようとしたが暗くて避難できなかった。
寝られなかった。
水の力で岩が流されてぶつかる音
水の音が怖かった。
3時ぐらいに家から水がひけた。



4:00 ひどい被害

外をのぞいたら電柱・ガードレールが
ひどく被害を受けていることがわかった。

暗くて避難できず音が怖くて眠れない...



4:30 何から手をつけたら...

外を歩いてみた。
家の周り以外の地域は見ようとは思わなかった。
途方に暮れちゃった。
何から手をつけたらと。



早朝 5:00 孤立したことがわかった

実家へ帰ろうと思ったら、
道が塞がっていて出られなかった。
軽トラを動かそうとしたら動かなかった。
農道も下の道も通れない、孤立したことがわかった。



大日向郵便局前の様子。電柱が3本倒れ、ガードレールも大きく落ちた。この地域ではガードレールに引っかかっている流木や倒れたままのミラーなどが、いつまでも災害を思い起こさせるという話を聞いた。

10.13 (日) から

自宅が被災し、区の活動はできない

自宅は水害対策で他の家より1m高くしてあるのに
それでも床上浸水した。
被害は高いところで1m20cmの浸水。
3区は山からの水も出た。
川がガードレールをギリギリ越えないことはあったけれど
25年住んでいてこんなのは初めて。

20人親戚等が駆けつけてくれた。
本当は区のことをやりたかったけど、家のことで何もできなかった。

三役のうち二役が被災。
区の動きはやれないという話になり
自分の家のことをやった。

被災したら人のことなんて考える余裕がない。
区民から役場に電話したら「区長さんに相談してほしい」と言われたそうで、区民から連絡が来たけれど対応できなかった。

携帯の電波が数日間途絶え困った。何にも連絡が取れない。
電波のある大日向4区の前田橋まで行って連絡を取っていた。
公民館に災害電話はない。
公衆電話は外しちゃっていた。

ボランティアの泥出し作業も
うちを最後にしてもらった。
区長じゃなかったらよかった。

生活再建に向けて

抜井川の岩を砕いてもらおうか広げてもらおうかしないと、また来年来ると思う。
来年来たらお手上げでどこかへ行くしかない。

災害ゴミはうちの前に今も引っかかっている。
ゴミの撤去をやらないうちとやっているところとあるのが辛い。
みんな自宅に戻っても抜井川が心配。
1日も早く抜井川の再建をやってもらいたい。

同じ区でも被災していない方との間で遠慮がある。
被災していない人が来ても「大変でしたね」で
会話は終わってしまいお互い気を遣ってしまう。
文書配布も他の伍長にお願いしたし、区の資料も1Fにあったから流された。
敬老会も中止、支部の旅行も中止、ほとんど中止にした。
三役の2人にやる余裕がない。



3区 区長 山口 晃さん

自主防災組織を編成して役場に組織表を提出していたが、機能させることができなかった。
自分のことで精一杯だった。
避難については、消防団が頑張ってくれた。
しかし、土曜日じゃなかったらどうだったのだろう。

取材者のつぶやき

自宅が浸水し、命の危険を感じながら一晩過ごしたその精神的なショックは計り知れません。
災害時にすべての区長が動けるわけではありません。
そのことを念頭に、災害への対応、発災後の復旧をとらえていく必要があると感じます。(炭谷)



地域おこし協力隊 炭谷

被災したら人のことを考える余裕がなくなる

二役被災

携帯の電波が途絶える

大変でしたねと言われるのがつらい...

大日向 4区

これは尋常じゃないな
と思った



あの日、
区長は。

10.12 (土) 当日

家の周りの水路をちゃんと流れるか見たり、
自転車を倉庫にしまったり個人としては片付けをした。
区としては取り立てて、準備はしていない。

昼ぐらいまでは大丈夫だろうと思っていたが
午後はいかななという気持ちになった。

テレビからの情報で「これは尋常じゃないな」と思った。

4、5区の消防団が5区の公民館に詰めていたので、
自分も消防団と一緒に**5区公民館に行ったほうがいいのか迷った。**
しかし4区にいたほうが良いと判断して
5区にいた消防団員の息子と連携して4区にいた。

避難しない人もいた。
平成11年の大雨の記憶が皆ある。
その時は大した被害がなくて
避難しないほうがよかったねと言っていた。

区民の名簿を見ながら、心配な人に電話で確認した。
夕方の段階で5軒避難していなかった。
避難しない人は、怪我をしていたり
家の位置からして大丈夫だろうという自信があったのでは。
無理やり避難させるということはやらなかった。

三役は電話連絡をしあって、区民の避難状況などを確認しあった。
働いているので、すぐに集まるのは難しかった。

通常の避難所は龍興寺に決まっているが、
町の無線放送で茂来館に避難するように言っていた。
しかし、
「龍興寺へ避難したいから和尚さんに言っておいて」
と区民から連絡があり、避難した人が何人かいた。
**本来ならば世話役で区長もいなければ
いけなかったのかもしれない。**
あとで和尚さんから毛布が足りなかったと言われて
区として、毛布を買って預けておく
ということも必要だったかなと。

私は夕方に茂来館に避難した。



4区 区長
小須田 基弘さん

公民館に停電時でも使える災害電話があり、大変助かった。
区の自主防災組織の計画・役割分担を
活用することができなかった。

区が情報班（隣組長）、消火班、炊き出し班等役割分担を決めていた。
今後、防災訓練などで自主防災組織をより生かすことのできるような
訓練を行なっていきたい。

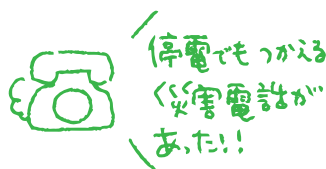


10.13 (日) 区は何ができるか話し合った

朝5時7分 息子から電話があった。
畑が被害に遭ったこと、家は無事だったことを教えてくれた。
8時すぎ、家が被災した区民や土砂崩れによって
道が通れないと地域内の事業者から電話があった。
三役が公民館に集まって何ができるか話し合った。
土木委員や5区の区長とも何度か電話した。

断水していたため
公民館にある外トイレを使えるようにした。
断水は23日まで。
停電は17日まで続いた。

役場とも電話で話した。
4区公民館には停電時でも使える
災害電話があり、大変助かった。



10.14 (月) 被災した家へ泥出しの手伝い

どこがどうなっているのかまずは把握するために
三役と土木委員で被災箇所を見て回った。
ブルーン畑も被害に遭った。
林道も川になった箇所があった。
午後は、消防団と一緒に被災した家の泥出しの手伝いに行ったりした。
気になる家は自分が回ったり、電話した。
民生児童委員も回った。
電気・水が使えなくても自宅へ帰る人が多かった。
ガスも使えるし、いつも通り料理している人が多かった。



復旧に向けて

10月29日付で区民に手紙を書いて**区民の要望を募った。**
業者に頼むほどではないが土木委員に作業して欲しいことを聞いた。
泥出し2件、道路の修理1件、用水路の修理1件、床下消毒1件、
田んぼの被害相談1件の連絡があった。
泥出しは三役と土木委員で行った。
道路の修理は役場に問い合わせたら
区で手配できないかと相談された。
道が壊れたことについては
近くの地域内の事業者現場に仕切ってもらい
区長が土木業者の手配だけした。
現場を仕切る人がいたから助かった。

その後も三役と連絡を取り合いながら
区民から要望のあった簡易トイレセットを配ったり、
役場から支給された電池を配布したりした。

池ノ尾橋より上の武州街道が大規模
に崩落。住宅の目の前まで道路が崩
落し、カーブに沿って道路全てがえ
ぐられている様子がわかる。

取材者のつぶやき

「ほかに大変な人はもっている」「ボランティアさんを頼むのは悪い」といった声を被災された方からお聞きました。そんな中に届いた区からの手紙に、私は深い思いやりを感じました。どうしたら区民の不安に寄り添うことができるのか、三役の方が悩んで、想いを寄せてくださっていることを区民の方も感じたはずです。



大日向4区在住
地域おこし協力隊
炭谷

川久保区

防災訓練はしていたが
災害時は動けない…



あの日、
区長は。

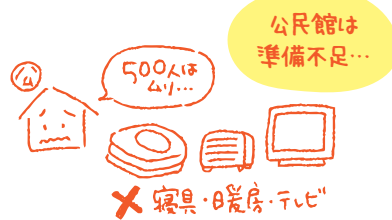
10.12(土) 当日 公民館に区民全員入らない

朝**公民館に避難所を設置**。避難所と掲示して鍵を開けた。
町の無線でなくて区のスピーカーで知らせようとしたが、
毛布・寝具・暖房・テレビという生活を整えるのに最低限のものがなく、
区民の多くが来たら入りきらないため、ためらいがあった。

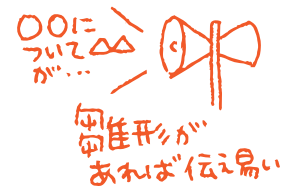
後で知ったが、実際は毛布はあった。公民館の片隅に入っていた。
古いもので使用に耐えられるものではなかった。
公民館に避難したのは区民500人のうち前区長と現区長の家族ら10人程度。

公民館と茂来館と、どちらへ避難誘導するのがいいか迷いがあった。
一時避難所として公民館を開放すべきかは
現場でしか判断できない。

区長が屋外放送器を使ってアナウンスするにしても
雛型も考えておかないといけない。
ただ「逃げてくれや」って言っても伝わりづらく
原稿があると話しやすい。



当日は被災状況やそれに伴う対応について
区民からの問い合わせはなかった。
消防団は公民館を詰所にした。1Fの小部屋。
連絡は取り合った。



14:30 町全域に避難準備・高齢者等避難開始情報発令

町の避難所になっている茂来館に行ってみたが
川久保の人が**どこにいるかわからなかった。**
川の近くに3軒家があるが、逃げなかったところもあった。

91歳のおばあちゃんを茂来館へ避難させようとしたら
見ず知らずの人が集まる場所にいきたくないとかたくなに拒ばれた。
避難所でなく高野町の**友人の家ならば良い**ということでそこへ連れていった。

19:15 余地川沿いに避難指示 発令

20時ぐらいに家に帰ってみたら余地川が50cmぐらい溢れていた。
水路の側の家3軒に濁流が流れ込み、床下が水路と化した。
これをみて**身の危険を感じた。**

9月の防災訓練で、当初の内容は初期消火を予定していたけれど、
開催の1か月前に「防災訓練としてはこれでは足りない」と感じて、
土嚢作りに変更した。
その時に60個を作り公民館に配置したが、今回大いに役立った。

常会長へ指示を出した。
自主防災組織では伍長が各家の情報を確認し、
常会長へ連絡するという流れがあったが機能しなかった。
常会長は50～60代が多く、全員勤め人。
停電で固定電話が使えず
携帯も繋がりづらい状況が続いた。
また川久保の区長は勤めているとできないと思う。

災害電話もあるが、公民館には電話機はなく
回線がきているだけ。
自分で電話機を持って行くシステム。
(それもどこかにあるかもしれないが)
9月1日の防災訓練で毎回使っているが、
災害時、大変な時はそんな対応できない。



川久保 区長
新海長治さん

公民館に発電機とテレビはセットしておきたい。
被害の全体像を把握するのにテレビは必要、
携帯電話の充電器も必要だった。
公民館の暖房も電気。
灯油ストーブも電気のものだった。
停電したら使えない。



大矢ライスセンター前の道路が陥没している様子を余地川にかかる梅田橋から撮影。周辺では川の侵食により住宅が大きく傾いて倒壊するといった被害もみられた。

10.13(日) 区長は区民と役場とのパイプ役

翌朝5時から見て歩いた。
大規模農家の被害が甚大だった。
人災はなかった。区民から被害の連絡がきた。

頭首工をやられちゃうと稲作ができなくなる。
電話で役場に連絡した。
被害状況の情報収集は副区長や消防団と一緒にに行った。

取水口に土砂があふれてしまった。
花卉栽培をしている農家から花がダメになっちゃうから
つまった水路をなんとかしてほしいと連絡があり
被災者と区で対応し、2週間後に通水した。
トラクター、ハーベスタがダメになったり、農家の痛手は大きかった。
被害額は数千万円の見込み。

役場を通せば費用負担をしてもらえるものを、
役場はすぐに動けないからと自分でやろうとしてしまう人がいた。
役場を通すようにと伝えたが、それでもやってしまう人はいた。
生活がかかっている。

役場への要請は書類で行った。
行政も口頭で言われるよりも助かるだろうという考えだ。
重機オペレーターを被災者が手配し、区で雇った。
床下消毒を区が10月19日に行った。

全体を通して、あの対応でよかったのかと疑問が残るところも多い。



抜井川にかかる石合橋。
上流からの流木等が橋梁に
絡みつき、越水した。



川久保区内を流れる抜井川の様子。
川幅が広がり、周囲の畑や宅地が
押し流される被害が出た。

取材者のつぶやき

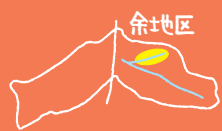
この災害で、茂来館に避難するのはためらいがあったというお話をよくお聞きしました。町内や、佐久市等の比較的近距離に住む親せきや知人を頼って避難したという方も多かったのではないのでしょうか。緊急事態に少しでも落ち着いた気持ちで過ごすことができるような、人との関係が大切だと感じます。(炭谷)



地域おこし協力隊
炭谷

余地区

42軒が孤立



10.12 (土) 当日

15:30頃、区の役員に避難所となっている余地水田転作促進研修センター（以下、研修センター）に集まるように電話し、常会長、民生児童委員ら9人が集合した。
区全戸に避難するように9人全員に声がけを指示。

区長は区の入り口である大木戸橋にて、区民の避難の様子や川の水位をみるために待機した道路にいと茂来館や佐久穂小中学校へ行くとか子どもや兄弟のところに行くとか言ってくれる人もいたがその他の区民については誰がどこに避難したのか把握はしなかった。

常会長4人・民生委員
消防団と研修センター
に待機



16:41 余地地域に警戒レベル4

18 時頃研修センターに戻った。
すでに雨が強く降り、県道は川のようにになっていた。

避難してきた区民は3人のみ。それぞれ毛布などは持ってきていた。
消防団や役員らと1 階の台所にいた。
一睡もできなかった。

携帯の電池がなくなり、区の会計が予備のバッテリーを貸してくれた。
非常用の飲料水も用意していなかった。
夕飯は誰も食べなかった。そういう気持ちになれなかった。

21:00 停電

川の音が怖かった。真っ暗だし、避難できない。
危ないので出るなという指示をした。

停電で室内にある防災無線が良く聞こえなかった。
今考えると電池がなくなっていたのかもしれない。
屋外放送器は研修センターから離れている。
川の流れがすごかったこともあり、全然聞こえなかった。
テレビもつかない。

深夜 危険な橋を渡り土嚢積み

夜中、区民が来て「道が水路みたいになった」と。
そこにいた5～6人で土嚢を積みに行った。
土嚢の砂がないので、近くの土建屋さんから砂を借りた。
橋を渡らなければいけなかったので怖かった。
暗かったので懐中電灯を使って作業した。



川沿いの土地が水の力によってえぐられた様子。
一見すると、表からは被害はわからない。



余地 区長
友野 守さん

区民の皆さんが安全なところに避難していると思って夜を過ごしたが誰がどこにいるのかという情報を全ては把握していなかったので少し不安がありました。翌日みんな無事だと聞いて安心しました。誰がどこに避難しているか、区として正確には把握しておくべきだったかと思います。今までに経験したことがない大きな災害となりました。私としては、皆さんの要望、相談等は行政にすべて報告しています。早い復旧を望んでいます。



写真左の青い水道管の見えるところは、
県道が通っていたが、大規模に崩落。
友野区長はこの様子を見て、すぐに
迂回路が必要だと判断した。

10.13 (日) 朝 迂回路の設置と周知

山からの水で研修センターの前の庭がえぐられた。
一時避難場所としては適していなかった。
県道が何箇所も落ちて道がなくなっていた。

道の先にある42軒が孤立した。
孤立を解消するため、道路の確保をどうにかしないと、と思った。

すでにある細い農道を迂回路にして区民に知らせる図面をかけた。
路肩が弱いので、道を補強してもらい、標識を借りて設置した。
常会長のひとりが役場に行って、全戸分の印刷をし、
常会長を通じて全区民に配布した。
常会長4人に全戸の安否確認をお願いした。
結果、区民全員の無事が確認できた。けが人も1人もいなかった。
床上浸水した家が1軒あり、消防団と役場で家財の運び出しを行った。

生活再建に向けて

役場の建設課や町長が回って来た。
(災害が大規模なので) 町もあれこれ細かい指示が出せないのでは
区の判断でやっていいと町長が言ってくれた。

県道が長いところで95mも流失し、上下水道も破損していた。
一刻も早い復旧の為、業者の方が町、県、佐久水道、南佐久環境衛生組合の
4者と話し、工事に着手してくれた。
確認する箇所が沢山あり、大変だったと後で業者から聞かされた。
他にも、数箇所通行止めのところがあったが、区の人たちが土砂を除去し
通行できるようにしてくれた。
断水していたので、給水車が来た。
地域をよく知る役場職員が来て高齢者の家には水を運んでくれた。
大変助かった。

発災時の区長の役割とは

発災後1 週間くらい経つと
区民から「見に来てほしい」「土嚢を積んでほしい」との声が頻繁にかかるようになった。
水路の泥とか手に負えないものは、優先順位をつけて役場をお願いしたものの
役場からは国の予算が決まらずはっきり答えを得られない。
区民から「ここ(道路)はいつ直るだい」と言われるが、**自分自身では答えようがない。**

町から区長に対して **指示があったのは2回だけ。**
1回目は10月31日に農業施設の被害状況の調査依頼。
2回目は緊急区長会議への出席依頼だった。

区長は自分で考えて動かなければいけない。
被災した家への支援は、区を挟むものではないが
民生委員にはたまに回ってくれと言っている。
発災前からだが、健康のために**地域を歩いている。**
その時に、偶然顔を合わせて、**被災した方から現在の様子を話してくれることもある。**

区長の任期がこの3月でおしまいだから
役員全員が新しい人だと混乱があると考えて
水利委員のひとりとは「心配だから」と継続してくれると申し出てくれた。

取材者のつぶやき

役場と区民のつなぎ役として何度も何度も区と役場を行き来し調整するのは大変な心労を伴うものだったと思います。道路や農地の復旧作業は「今は作業を待っている状態。これからが大変」とのこと。水利委員に残ってもらったように 4 月からの新体制への引き継ぎをどうするか、今まで以上に「連続性」が求められそうです。(副島)



地域おこし協力隊
副島

被害件数・降雨量

住家

全壊 12棟
その住家の損害割合が50%以上

半壊 52棟
その住家の損害割合が20%以上50%未満

一部損壊 5棟
全壊及び半壊に至らない損傷(20%未満)

床下浸水 72棟
床上浸水には至らない程度に浸水したもの

非住家

全、半壊 39棟

(2019年12月19日時点)

十石峠に近い「上石堂」では、佐久穂町近年の年間降水量の約70%が1日で降った。

上石堂	557ミリ
古谷ダム	468ミリ
大日向	391ミリ

佐久穂町近年の年間降水量	775ミリ
ハツ嶺(参考)	221ミリ

(10月11日23時～12日23時) 出典：長野県 河川砂防防災ステーションデータ

24時間
雨量



佐久穂町近年の年間降水量

775

2019.10.12 時系列

10:08 避難所開設(茂来館)

10:57 消防団 第3分団出動 高齢者等避難補助

11:03 警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始(大日向 対象681人)

11:40 川久保区 避難所開設

13:51 警戒レベル4 避難勧告発令(大日向 対象681人)

14:00 大日向2区 避難所開設

14:30 警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始

(佐久穂町全域 対象10,344人) 15:00 1区 / 茂来館に避難

15:25 大日向小学校グラウンド冠水のため避難所閉鎖

15:30 長野県に大雨特別警報発表

15:37 大日向小より避難住民撤収 佐久穂小中学校へ

15:40 余地ダム放流予定 6t/秒

国道299号小海線アンダーパス冠水のため通行止め

15:50 川久保区 抜井川オーバーフロー

16:09 余地ダム放流開始(毎秒2t増)

16:11 大日向3区 抜井川オーバーフロー

16:14 消防団 全団員へ自身の安全の確保を最優先するよう指示

16:30 停電に関する無線放送(上、高野町、畑、八郡、宿岩の一部)

16:44 警戒レベル4 避難指示発令(余地地域 対象363人)

大日向停電中

17:40 警戒レベル4 避難指示発令(千曲川沿線の地域 対象3,806人)

19:10 余地ダム越水

19:15 川久保 / 公民館に避難

19:15 警戒レベル5 災害発生情報(余地川沿線の地域 対象533人)

19:33 警戒レベル5 災害発生情報(抜井川沿線の地域 対象2,378人)

21:00頃 停電・断水 21:00 5区 / 龍興寺に避難

21:19 古谷ダム放流の可能性 抜井川沿いに「洪水に関する災害発生情報」

21:29 千曲川 数カ所で越水

22:12 道路冠水につき県道川上佐久線通行止め無線放送

23:57 古谷ダム緊急放流ない旨、無線放送

00:25 余地ダム放流終了

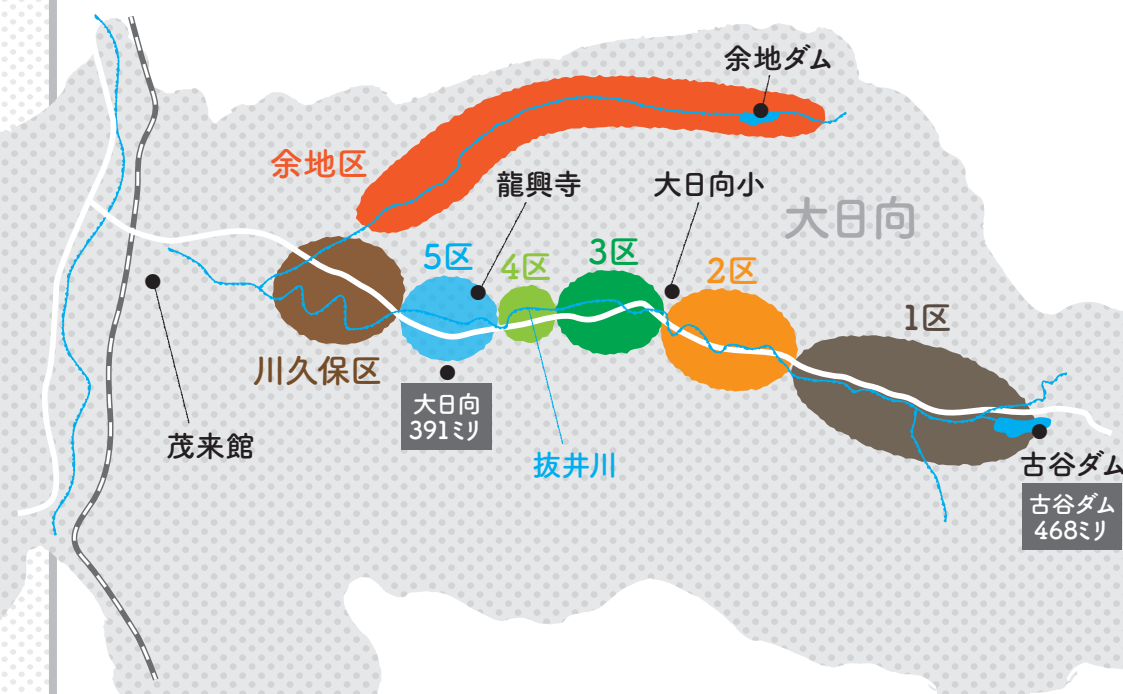
00:57 大雨特別警報解除

10時過ぎに茂来館に避難所が開設され、14時前に大日向に「全員避難」の警戒レベル4。その間わずか4時間。

被害に合わせて閉鎖・変更になった避難所もある。

各区長の記録にある時間軸と照らし合わせると、いかにその場での判断が重要だったかがわかる。

「大日向・余地」



本文中に出てくる場所は地図上ではこの位置。
大日向地区は抜井川に、余地地区は余地川に沿って作られた地域なので大きな被害が出た。「避難所として使われた」との表記で出る「茂来館」「龍興寺」「大日向小」は川から離れたやや高台に位置している。

編集後記

これは一区長であり、一住民の災害の記録です。

区長さんの動きも7人いれば7通り。災害に絶対的なマニュアルはなく、その場その場で最善の判断をして動いたことがわかります。

多くの区長さんは「何かあったら区長の責任だから」とおっしゃいました。集落を守る重責を区長さんだけが担うのでなく、住民の皆さんと分かち合えたら、より多くの人が安心して暮らすことができるのではないのでしょうか。皆さんひとりひとりが今回の災害を自分の事としてとらえていらっしゃると思いますが、さらに小さなつながりの中で解決できるように備えておくことが求められています。

とはいえ「小さなつながり」を失いつつあるこの時代に、どうしたらよいのでしょうか。地域を歩くと、被災した同じ集落の人々に、なんと声をかけていいのかかわからないという話もお聞きしました。まずは近くの人と、何が起きたのかを共有し、一緒に災害について話すことから始められたらいいのではないのでしょうか。(炭谷)

川久保の新海区長から「公民館に眠っていた毛布」の話が出た時に、自分のことを言われているような感覚になりました。我が家にも東日本大震災直後に購入したまま眠った防災バッグがあったためです。内閣府の調査によると「災害に備えることは重要だと思うが、災害への備えはほとんど取り組んでいない」人は50.9%にもなります。行動を起こすのは難しく、防災への意欲も日々確実に薄れていくようです。

発災後の目の前の業務に追われる中で発災時の記憶がどんどん薄れていくことにふと気づき、このままではいけないという不安が襲いました。記憶のあるうちに記録にしなければならない。この災害を経験した人間が残さなければいけないこと、忘れてはいけない細部があったのではないかと直感的に思い、お話を聞く活動を始めました。

「発災時のことをできるだけ細かく

教えて欲しい」と大変失礼なお願いにも関わらず、嫌な顔を見せず協力してくださった区長たちに感謝しても足りません。改めてお礼を申し上げます。

それぞれの区は被害状況も違えば、区の世帯数等も異なるため、区同士を比較したり「この区はこれをやるべきだった。」と後から批判することはナンセンスです。今回区長らが経験したことは今後誰もが経験するものであり、「想定外」を「想定内」にしていくためのヒントがたくさんあるように思います。

人口減少社会において、公助にも限界があります。数年後には「眠った毛布」になるものを増やすのか、「毛布があることを知っている人が多い」状況を作るのか、記憶があり熱が冷めていない「今だから」できることがあるかもしれません。(副島)

役場より

今回、7地区の区長さんにご協力をいただき、発災当時の記憶を文字に残し、お伝えすることができました。今回取材させていただいた区長さんの他にも、この災害の記憶を今後の防災に役立てるため、ご協力いただけることがありましたらお知らせください。

住民の皆さんの中には、ご自身の経験と重なる内容や初めて知ったことなど、多くの「気づき」が生まれたのではないのでしょうか。

災害の記憶やそうした「気づき」は、今後の防災に役立てることが出来ます。

あなたが感じた気づきを出し合いながら、災害に強い地域、日常的なつながりがあり、暮らしやすい地域をめざし、周りのみんなで話をしてみませんか。

町では対話のきっかけづくりのための集落点検事業を行なっています。総合政策課政策推進係までお気軽にお知らせください。

地域の道しるべ新聞

集落を支える現役世代と次世代が、ともに考え、つながる

発行／佐久穂町役場 総合政策課 長野県南佐久郡佐久穂町大字高野町569番地 TEL0267-86-2553

発行日／2020.2.20

文・編集／炭谷茜・副島優輔 佐久穂町地域おこし協力隊 デザイン・イラスト／江村康子

本文に誰にとっても見やすく読みやすいユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています>

UD FONT